

Racing Topics

★中央競馬ニュース 文・谷川善久★

●安達昭夫調教師がJRA通算300勝を達成

8月16日(日)の2回小倉2日・第12レースとして行われたRKB賞ではサンキューが1着となり、同馬を管理する安達昭夫調教師(栗東)は、現役65人目となるJRA通算300勝(延べ4331頭目)を達成しました。

●2歳・芝1200mの中央競馬レコードタイム更新

8月16日(日)の2回小倉2日・第1レース(2歳未勝利)では、フリード(牝2歳/栗東・西園正都厩舎)が1分7秒5のタイムで勝利しました。これは2001年フェアリーS(GⅢ)でサーガノヴェルが記録した1分7秒8を更新する、2歳・芝1200mの中央競馬レコードタイムとなります。

●高橋義博調教師が勇退し伊坂重信調教師が新規開業

高橋義博調教師(美浦)が8月20日(木)をもって調教師を勇退しました。JRA通算成績3951戦132勝・地方12戦0勝でした。これに伴い、伊坂重信調教師(美浦)が8月21日(金)付、12馬房で新規開業しています。

●サマーシリーズ途中経過

8月16日(日)、サマー2000シリーズの第3戦・小倉記念(GⅢ)ではアールスター(牡5歳/栗東・杉山晴紀厩舎)が1着となり、重賞初制覇を果たしました。同馬に騎乗した長岡禎仁騎手(栗東・高橋亮厩舎)も9年目で初の重賞制覇。これでサマー2000シリーズは、第1戦・七夕賞(GⅢ)の勝ち馬クレッシェンドラヴ、第2戦・函館記念(GⅢ)の勝ち馬アドマイヤジャスタ、そしてアールスターが10ポイントで1位タイに並びました。また、同日に行われたサマーマイルシリーズ第3戦・関屋記念(GⅢ)ではサトノアース(牡6歳/栗東・池江泰寿厩舎)が勝利。同レース12着のメイケイダイハードが、第2戦・中京記念(GⅢ)の1着と合わせて11ポイントとなり、依然トップに立っています。なおサマージョッキーズシリーズは、対象となる15レースのうち9レースが終了。酒井学騎手(栗東・フリー)と菱田裕二(栗東・岡田稲男厩舎)が16ポイントで首位に並んでいます。

★地方競馬ニュース 文・宇田川淳★

●ブリーダーズゴールドCは前2年2着のプリンシアコメータ

ブリーダーズゴールドC(JpnⅢ、8月13日、門別、2000m)は、2番手を進んだ2番人気のプリンシアコメータ(岩田康誠騎手、牝7歳、父スパイクキュール)が直線に入って間もなく先頭に立って1馬身半差で完勝、前2年2着の鬱憤を晴らして約一年半ぶりの勝利を収めました。メモリーコウが1番人気のレースブランシュとの2着争いをアタマ差で制し、シネマソングスが4着、逃げた3番人気のマドラスチェックが5着と、5頭出走したJRA所属馬が上位を独占しています。

●ヤングジョッキーズシリーズトライアルラウンド園田の結果

2020ヤングジョッキーズシリーズトライアルラウンド園田は8月13日に実施され、第1戦は川又賢治騎手(栗東)、第2戦は岩田望来騎手(栗東)が制しました。

●盛岡芝の若鮎賞はマツリダスティール【各地の主要2歳重賞】

若鮎賞(8月16日、盛岡、芝1600m)は、最後方から追い上げたマツリダスティール(牡、父エキストラエンド)がアタマ差競り勝ち、1番人気に応じてデビュー以来芝で2連勝。フルールC(8月12日、門別、1000m、牝馬)は、2番手を追走した1番人気のマーサマイディア(父サウスヴィグラス)が、ゴール前で逃げ馬を捉えています。

●インザフューチャーが湾岸スターCを制覇【各地の主要3歳重賞】

東海地区デビュー馬限定戦の湾岸スターC(8月5日、名古屋、1600m)は、2番人気のインザフューチャー(牡、父ノーザンリバー)が2番手から残り50mを切った辺りで差し切り、2歳時のゴールドウィング賞に次ぐ重賞制覇。単勝1.5倍で断然人気のエムエスオープンには6着に敗れました。

※最新の開催情報は各主催者のホームページ等でご確認ください。

★海外競馬ニュース 文・秋山響★

●G1アラバマS~スイススカイダイバーがG1初制覇

8月15日に米国ニューヨーク州のサラトガ競馬場で行われたG1アラバマS(3歳牝、ダート2000m)は、T.ガフアリオン騎手とのコンビで1番人気に推されたスイススカイダイバー(父デアデビル、K.マクブーク厩舎)が2番手追走から4コーナー手前で早々と先頭に立ち、最後はスピードを抑えながらも2着以下に3馬身半差をつけて優勝しました。G1初制覇を果たしたスイススカイダイバーは今年6月のG2サンタアニタオークス(ダート1700m)まで重賞を3連勝。しかし、牡馬に初めて挑んだ7月の前走G2ブルーグラスSでは2着に敗れていました。

●G1ジャックルマロワ賞~パレスピアがG1連勝

8月16日にフランスのドーヴィル競馬場で行われたG1ジャックルマロワ賞(3歳上牡牝、芝1600m)は、L.デットーリ騎手を背に最後方からの競馬となったパレスピア(牡3歳、父キングマン、英J.ゴスデン厩舎)が馬場中央を豪快に伸びると、G1コロネーションSの勝ち馬アルパインスターに $\frac{3}{4}$ 馬身の差をつけて優勝。前走のG1セントジェームズパレスS(芝1590m)に続くG1制覇を果たすとともに、デビューからの連勝を5に伸ばしました。